

# 『事業名:福島発「復興知」の総合化による食と農の教育研究拠点の構築』 2020年度事業の概要

**福島大学 連携市町村:川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町**  
**現地拠点 :双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内 ほか**

## 事業のポイント

震災から10年が迫る中、復興事業の見直しが進み、復興支援活動・研究の規模・多様性が急速に失われつつある。本事業は福島大学が“扇の要”となり、全国の大学と連携し、これまでに確立されてきた『復興知』の収集・整理を経て、その総合化による食と農の教育研究拠点を構築を目指す。ここで体系化された「復興知」は、福島大学の学生だけでなく、被災者・復興の実務者・全国の大学生にも還元できるスキームを構築し、福島イノベーション・コースト構想や福島の復興に資する人材育成を持続可能なものとしてゆく。

## 2020年度の取り組み内容

### I) 復興農学の教育研究拠点の構築に関わる取組

- A) 「復興農学会準備会」で産学官民が連携し、復興農学の理念の構築とその推進
- B) 復興農学研究会での「福島フォーラム」「現地ツアー」「出前講義」「先端技術体験」の企画・実施
- C) 福島大学における学部専門教育・大学院教育への反映

### II) 復興支援研究

- A) 浜通り地域産米の「食と農の特性」の明確化による、米粒の理化学的諸形質の調査
- B) 浜通り地域産米の加工特性評価と魅力ある利活用開発
- C) コメのセシウム吸収リスクの評価による世界的視野でのハザードマップの作成スキームの構築

## 取り組みによって得られる成果

- ① 既往の復興支援研究の成果の収集・整理・体系化
- ② 福島大学を核とした復興に関わる研究者・実務家のネットワーク化・連携促進
- ③ 全国の研究者との連携による福島大学を核とした食と農の教育研究拠点の構築

### I. 浜通り市町村等における大学等や研究機関と連携した教育研究活動の取組み

#### ○「復興農学会準備会」

- 1) 「復興農学会準備会」の推進  
※「復興農学会有識者会議」の推進を含む

#### ○復興農学研究会

- 1) 福島フォーラム                      2) 被災地ツアー
- 3) 出前授業                              4) 先端技術体験

#### ○学部専門教育・大学院教育への反映

- 1) 実践型教育プログラム、「むらの大学」の推進
- 2) 大学間の共同授業開講（単位互換）の検討

### 【教育研究】

相互  
運動

### 【復興支援・実践】

#### ○復興支援研究(重点課題)

- 1) コメの食味評価
- 2) 水稻のセシウム吸収リスク評価と安全対策
- 3) コメの食品加工を踏まえた経営モデルの構築

### II 浜通り市町村等における教育研究活動の長期的継続・拡大を目指す取組み

- 国内外の大学・研究機関
- 福島県
- 国(復興庁・文科省・農水省等)
- 福島イノベーション・コースト構想推進機構

- 被災15自治体
- NPO・市民団体
- 農業者
- 民間企業
- 復興人材・実務家
- 全国の大学生(福島大学生を含む)

